

一 言語事項

漢字の読み書き5問、ことわざ・慣用句5問、類義語5問を出題しました。ことわざ・慣用句の記号問題については正答率が高く、日頃の生活で使わない言葉まで、よく学習してきたことが答案から感じられました。一方で、漢字については「構内」を「校内」と間違える解答が多く見られました。文脈に合った漢字を適切に選択して答える力が求められます。また、「ゆだねる」は「委員」などでよく目にする漢字ではありますが、正答率が低い問題でした。訓読みでどのように読むのかという点まで学習ができるとより良いでしょう。「感心」の類義語の「敬服」についても正答率が低かったので、類義語・対義語の対策も行いましょう。言語事項の問題では幅広いジャンルが出題されるので、日ごろから満遍なく学習することを心がけましょう。

二 説明文の読解 出典：中島隆博『人の資本主義』

人口減少社会の課題である「資本基盤」への適切な「手入れ」についての文章です。「資本基盤」とはどのようなものか、また、適切な「手入れ」とはどのような労力を正しく読み取り、情報を整理する力が求められます。問四の記述問題では、①「手入れ労働」を要する職種の抱える課題と②「生産」との違いという2つの要素を説明する必要性がありました。①については良く書いていましたが、②の要素は傍線部から離れた部分からキーワードを見つける必要があったので、不足なく解答できるかというところで得点に差がつかれました。また、違いを問われているので、「生産」と「手入れ労働」を比較する形で書く必要がありました。未回答の答案も見られたので、解答となる要素を取捨選択し、適切な形でまとめる練習をしましょう。

三 物語文の読解 出典：佐藤いつ子『ソノリティ はじまりのうた』

中学校の合唱コンクールで指揮をすることになった主人公「早紀」が、同級生の「岳」に励まされて前向きな気持ちを取り戻す姿を描いた文章です。「岳」とのやり取りを通して変化する「早紀」の心情を正しく読み取っているかを問う問題でした。心情や文章表現の意味を問う問題は正答率がとても高く、適切な解答を選択することができていました。ここから、傍線部の前後の言動から解答を導くことができる力はしっかりと身につけていると考えられます。一方で、問三の心情の変化を記述する問題には、「早紀は自分に自信がなかったが、岳から認めてもらえたから」という解答が多く見られました。この解答では、「うれしかった」などの変化後の早紀の前向きなプラスの心情が不足しており、事実を理由として解答してしまっています。事実と理由を区別して書く練習をしていきましょう。

四 複数資料を用いた総合的な文章 出典：小西雅子『地球温暖化を解決したい—エネルギーをどう選ぶ？』

文章（【資料Ⅰ】）・2つの資料（【資料Ⅱ】【資料Ⅲ】）・意見文から条件に合う要素を読み取れる内容に関連づけてまとめる記述力を試す問題です。【資料Ⅰ】は環境問題についての文章ですが、意見文は公園の問題を具体例とした共生社会実現についての文章となっており、異なるテーマの文章から必要な情報を取り出す力が求められました。一文目では、【資料Ⅱ】からは全世代に共通する特徴を読み取ることができていました。二文目では、【資料Ⅲ】の複数の項目から共通する「子ども」という対象に注目し、「子どもの公園づくりへの参加が求められている」ことに結び付ける必要がありました。十分に書くことができていた解答はあまり見られませんでした。また、【資料Ⅰ】から「対話」が必要であることを読み取れず、環境問題について書いている解答や、自分の意見を書いた解答がありました。個々の情報だけでなく、複数の資料や項目を組み合わせる読み取る力や、条件や求められている形式に合わせて解答する表現力を身に付けていきましょう。

<講評>

I. 計算・文章題の小問集合

計算問題と文章問題を出題しました。文章題の正解率が低く、とくに[3]が解けていませんでした。[1]分数の計算問題で通分したあとの分子が「和と差の積」に変形できるとあまり多くの計算をせずに解くことができます。[1]と[2]は正確に解く力が求められます。[3]既約（これ以上約分できない）分数の個数を求める問題です。分母と分子の和が48であることから分母が2の倍数と3の倍数の場合を除きますが、具体的に数えることでも解けます。いずれの方法でも分母が1のときを除くことを忘れてはいけません。

II. 図形の小問集合

前半が平面図形、後半が空間図形の問題でした。[1]円の半径が等しいことから、二等辺三角形が複数出来上がることに気付けるかがポイントです。[2]点線で結ばれている線が考える上でのヒントになっていることに注目すると面積比や辺の比が求められます。三角形の辺の比と面積比の関係を理解し、使えるようにしておくことが重要でした。[3]立体図形では(1)で求めた表面積の和を用いて考えますが、それに気付かず切断前の立体の表面積を全体として考えてしまっている受験生が多かったです。そのため(1)の正答率は高かったものの(2)以降は大きく差がつかしました。

III. 読解力や思考力・説明する力をみる問題

資料を読み解きデータを活用する問題です。[1]度数分布表から平均値の最小値を求める問題で、答えを求める式も書くように出題しました。和と商の計算順序を正しくするための()のないものがありました。また、最大値を求めているもの、階級値を用いた平均値を求めているものが目立ちました。問題文を正確に読むことは大切です。[2]会話文と2つの表を併せることができず正解率は低かったです。[4](1)階級と範囲の問題です。「以上」と「より大きい」、「以下」と「未満」の使い分け、階級の上下の入れ替えがポイントです。「12秒より大きく10秒以下」のような数の大小関係が正しくない解答が目立ちました。

IV. グラフから状況を読み取る力・グラフに表現する力をみる問題

[1][2]は問題文とグラフの関係や読み取り、[3],[4]は[1],[2]のグラフを用いながら考える問題でした。[1]はよくできている受験生が多かったですが、[2]のグラフをかく問題で差がつかしました。グラフの問題ではどのように変化しているかを見極めることが大切です。[1]の問題を通してなぜグラフがそのようになるのかをしっかりと理解し、[2]でも同じように考えていきます。最後の[3][4]は与えられたグラフと[2]でかいたグラフを活用して考えます。グラフを使うということを意識しましょう。

<学習のアドバイス>

算数は数学の入り口として中学・高校で必要なだけでなく、大学や社会に出ても必要な教科です。そのため計算力をつけるのはもちろんのこと、今後算数や数学を活用できるように次の総合的な力を身につけることを意識してほしいです。

- ・問題を正しく読み取り、数や図形の性質を理解して式やグラフなどをつかかって考える
- ・自分の考えたことを相手に正確に伝えられるよう、正しく分かりやすく表現する
- ・日常の事柄と算数をつなげ総合的に問題を考える

これらのことを意識しながら、1つ1つの問題にじっくり取り組んでいきましょう。

<講評>

I. 生物・地学・化学・物理の基本問題

[1] はアサガオの受粉に関する問題で、受粉できるかできないかの条件によって、実がなるかどうかを問う問題でした。条件を変えている実験では、結果を比べて説明することが大切です。[2] はふりに関する問題です。表の数値からふりの性質を分析して答える問題は正答率が低かったです。実験問題では、変わっている条件と変わっていない条件を整理して、何の条件を変えれば何がかわるのか説明できるようにしましょう。[3] は水にとけるものの重さの問題です。とける量と、とけ残る量の関係を理解しましょう。[4] は川の流れとたい積・しん食に関する問題で、正答率が高かったです。[5] は液体混合物の沸とうに関する問題で、問題Iの中でもっとも正答率が低かったです。問題で説明された条件や物質の性質を理解して、実験ではどんな現象がどんな順序で起こっているのか、丁寧に考えましょう。身近な物質の性質についても興味・関心を高めてください。

II. 光電池や発光ダイオードの実験に関する問題

再生可能エネルギーとは、等、普段から教科書等の科学用語の定義を重視していれば問題ないのですが、科学単語ばかりを暗記していると、自分勝手な解釈をしてしまい、問題を読み間違えることがあります。また[1]適当なものをすべて答える、[3]最も適当なものを1つ答える、という設問に対して、どう答えればよいのか、正しく答えることを意識した答えを心がけましょう。更に「どのように」という設問に対して「○○のように」という対話が成り立つような解答の表現を考えることも大切です。

III. 星の基礎知識とオリオン座の見え方に関する問題

私たちは普段は北半球に住み、北の空を見上げると反時計回りに星は動いていきます。暗記するのは簡単ですが、では南半球なら、南の空を見ると、星はどう見えるのか。考えたことはあるでしょうか？理科は理由を探る「なぜ？」も大切ですが、「条件を変えたらどうなるか？」という思考の幅を広げる「探究する力」が大切です。また、明るい星は温度が高い、と思いきはではなく、近いから明るい場合もある、というリード文の対話から情報を読み取る力も大切です。問題文の中に隠れている様々なヒントをしっかりと読み解く力が、理科の得点力の差になります。

IV. エンドウの遺伝のしくみに関する問題

遺伝に関する思考力を問う文章問題です。全体的に正答率が低く、難しい問題ではありました。しかし、遺伝のしくみを知らなくても、問題文や図に書かれている情報をよく読み、遺伝の法則を見つけ出し、それを使って筋道を立てて考えることができれば解答できる問題です。[1] では、問題文に書かれている比で計算できます。[2] では、図2を見ながら遺伝のしくみの説明をよく読むことで法則が分かります。[3] と [4] では、理解した遺伝の法則を活用して考えることが必要です。[5] では、受精と無性生殖の違いから、その違いによって得られる良い点を挙げるのですが、生物がもつしくみだけでなく、農作物を生産するうえでの人間にとっての良いところという視点が必要です。また、文章で答える問題では、自分の考えを上手に表現できていない解答が多く見受けられました。普段から、自分の考えを文章で表現することを心がけてください。

<学習のアドバイス>

本校が理科で皆さんに求めている力は、与えられた情報から法則を見つけ出す力、それを使って筋道を立てて考える力、自分の考えを表現する力です。これらは、理科のテストの問題を解くだけでは見につきません。普段から、身の回りの現象に関心をよせ、自分で情報を集め、こんな法則があるのではないかと仮説を立て、それを確かめ、分かったことを誰かに伝えるなどの活動を習慣化することが効果的です。

2023年1月8日(日)実施

I 日本の様々な地理的特色を題材にした総合問題

今年は様々なテーマの日本の地理的特色について出題しました。大問としての正答率としては一番高かったのですが、小問ごとで見ると、[1]の災害関連問題 2つの正答率が低かったこと、[7]ロの「産業の空洞化」を答えられていないもの、そして例年どおりの傾向ではありますが[8]の地形図の読み取り問題の正答率が低めでした。今年も短文記述問題を出題しましたが、今回テーマにした海溝型地震のしくみのついて、「ひずみ」という単語を正しく使用できていない答案が大変多かったです。日頃からさまざまなもの・ことの内容の説明、そうなる理由などについて、キーワードを使用しながら自分の言葉で適切に表現できるよう訓練を積んでください。また[7]イの石油危機(オイルショック)は漢字で書けていない答案も多く見受けられました。用語は漢字で答えられるよう、また別の言い方(表現)でも言えるようにしましょう。

II カードによる歴史総合問題

今年も古代から近代までの知識をはばひろく広く出題しました。[2]の「公地公民」や[6]「国学」などの用語記述問題については正答率が高く、たしかな演習をおこなってきたことがうかがえました。一方で、[3]・[8]・[9]の3問の正答率がやや低く、歴史上の出来事がおこった場所、近代の政治・経済状況についての深い理解の部分で点差がついたと思います。[7]の記述については、問題文に掲載された用語をただ写しただけのものが目立ちました。用語を回答するだけでなく、それらを使用して文章でできごとをまとめる力が求められます。用語暗記にとどまらない、様々な歴史的出来事の多角的な理解を受験生の皆さんには求めたいと思います。5W1H(いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ、どのように(どのような))を常に頭に置き、学習を進めていってください。

III 第4次産業革命に関する文章をもとにした地理・歴史・公民・時事融合問題

今年は近年の日本の情勢や世の中で話題になっていることに関する問題を多く出題しました。大問としての正答率は4つのうち一番低く、思考力を試す問題が多かったこと、また、この後に控えている大問4の解答時間を確保するために、十分に考える時間を確保できなかった様子が窺えました。記号や用語問題の正答率は高かった一方で[7]の「ギグワーク」を答える問題、[8]のマイクロクレジットが一般の銀行と何が異なり、どのような課題解決を目指しているか答える問題の正答率が低かったです。記述問題では、資料の内容やその意味を十分に理解できていないと思われる答えが多く目立ちました。日頃の学習の中でも重大ニュースや新聞を見て、日本において、また世界で課題となっていることについてアンテナを張り学習を続けてほしいと思います。

IV 複数資料をもとに内容を整理する論述問題

今年度も複数データを見て、キーワードを用いて課題と利点(メリット)について論述する問題を出題しました。今年は昨年度に比べ、頑張って回答した受験生が多かったのが印象的で、資料全てを適切に用いて回答した満点の受験生は1割弱いました。資料3(医師の偏在)、資料4(医療分野でのDX技術例)を用いた現代の日本の医療の課題・解決方法を記入することが出題の意図でしたが、資料2(現代日本の医療の課題点3点を示した箇条書き文書)のみで記入する回答が多く見受けられました。また、課題と解決方法との関連がかけ離れているものや、説明不足なものもあり、これらは減点対象としました。このようなデータを使用した論述問題は、与えられた資料全てに目を通すだけでなく、資料をすべて使用したうえでの解答作成が求められます。文章は一旦区切りが良いところまでは頑張って書ききり(その際どれかのキーワードと資料を1点をひもづけて)、一文が長くなりすぎないように、適宜句点を打ち区切りながら説明文をつくってみましょう。また日頃より過去問演習を通じて時間内に回答しきることができるよう、大問ごとの時間配分を考えながら訓練してみてください。